

井上ひさしが
作家太宰治の青年時代を描いた『人間合格』。

12年ぶりの再演

〔演出〕鶴山 仁

こまつ座 第133回公演

人間合格

【料金】一般 5,000円 / PLA's会員 4,500円 /
U30 (30歳以下) 2,500円 / 高校生以下 2,000円 /
ペアチケット (2名様分) 9,500円

《先行発売》2020年5月8日(金) ※PLA's 会員限定

《一般発売》2020年5月15日(金)

2020年7月26日(日)

15:00 開演 《14:30 開場》

【主催・会場】川西町フレンドリープラザ・ホール



太宰治とはいったいどんな人物？

本名は津島修治。明治42年6月19日、青森県北津軽郡金木村に生まれる。生家は600坪の宅地に250坪の大邸宅。尋常小学校時代は読書に夢中、作文が得意、全甲首席で卒業。昭和5年、弘前高校卒業。東京帝国大学仏文科入学。共産党シンパ活動。やがて除籍。身長173センチ、酒好き、パピナル(麻薬)中毒。5回の自殺未遂。昭和23年、玉川上水にて愛人と心中。享年39歳。代表作は『人間合格』『走れメロス』『斜陽』『ワイヨンの妻』『津軽』『グッド・バイ』など多数。

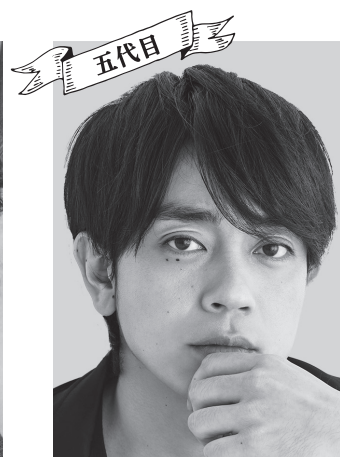
平成元年初演の*評伝劇

太宰治を主人公にした『人間合格』の初演は1989年(平成元年)、新宿紀伊國屋ホール。作者井上ひさしが55歳のときでした。

山形県内での公演は翌年2月24日と25日、山形こまつ座の主催で、会場は米沢市民文化会館でした。主演は風間杜夫。初演時の風間さんは40歳、太宰治とほぼ同年齢でした。若かったですね。今回は12年ぶりの再演、太宰治役は5代目の俳優になります。

『人間合格』は、昭和5年太宰治21歳から昭和21年37歳までの17年間の物語。青春時代とともに生きた3人の男たちの友情が、いきいきと面白く描かれています。劇中には心中事件も麻薬の話も出てきません。では作家はどんな物語を書いたのでしょうか。

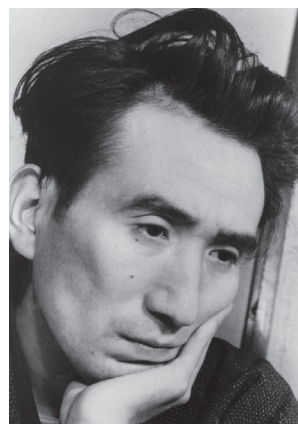
*評伝劇とは「ある実在した人物について、評価を加えつつ書かれた戯曲」といえます。



青柳 翔
(津島修治・太宰治)

【出演にあたってのコメント】

7月上演のこまつ座『人間合格』に出演させていただくことになりました。井上ひさしさん作、演出が鶴山仁さん、大先輩のキャストの皆さんに囲まれて興奮しております。大先輩たちが築きあげた『人間合格』の津島役は僕にとってとても大きな挑戦で不安もありますが、背伸びせずたくさんのことを学び、一喜一憂しながら頑張っていきたいと思います。紀伊國屋ザンシアターTAKASHIMAYA、その後山形県の川西町フレンドリープラザをはじめ仙台、兵庫、名古屋と巡演予定です。劇場でお待ちしております。



【太宰治を演じた役者たち】

初代:風間杜夫 / 二代目:渡辺いっけい / 三代目:大高洋夫 / 四代目:岡本健一

作家は太宰治と『人間合格』をどう語っていたか？

「太宰治」と『人間合格』に関する作者自身の言葉を、こまつ座機関誌『the座』から抜粋して紹介します。

《the座第15号「前口上」より》

太宰治と私の似ている点をあげますと、まず身長が一七三センチで同じ。それから太宰は盲腸をこじらせまして腹膜炎を起こし、非常に痛い目にあっておりますが、今年私も同じ目にあいました。

それから、歯が非常に悪い。30代で入れ歯をして、よく湯豆腐を食べていた。歯医者がかかったんだらうと思えますが、その点でも私は似ています。もともと、似ているのは、そこまでですが。(1989年12月発行)

《the座第21号「前口上」より》

さて、これから御覧いただくのは太宰治の評伝劇であります。評伝劇という形式はこまつ座の一手専売のようになっておりますが、それでもこの『人間合格』は、いままでのこまつ座の流儀とだいぶ違うようです。これまでは年譜的事実を徹底的に調べ尽くし、その作業



遅筆堂文庫に所蔵されている『人間合格』の資料▶その量は膨大で、調べに調べつくすため遅筆になるという井上ひさしのエピソードが思い起こされます。



●井上ひさしの評伝劇又は実在した人物をモデルにした戯曲

初演年	作家年齢	作品名	モデルの人物	演出家
1970(昭和45年)	36歳	表裏源内蛙合戦	平賀源内	熊倉一雄
1971(昭和46年)	37歳	道元の冒険	道元	熊倉一雄
1979(昭和54年)	45歳	しみじみ日本・乃木大将	乃木希典	木村光一
1980(昭和55年)	46歳	イーハトーボの劇列車	宮沢賢治	木村光一
1982(昭和57年)	48歳	吾輩は漱石である	夏目漱石	木村光一
1984(昭和59年)	50歳	頭痛肩こり樋口一葉	樋口一葉	木村光一
1986(昭和61年)	52歳	泣き虫なまいき石川啄木	石川啄木	木村光一
1989(平成元年)	55歳	人間合格	太宰治	鶴山 仁
1991(平成3年)	57歳	シャンハイムーン	魯迅	木村光一
1991(平成3年)	57歳	ある八重子物語	水谷八重子	木村光一
1995(平成7年)	61歳	黙阿彌オペラ	河竹黙阿彌	栗山民也
2002(平成14年)	68歳	太鼓たたいて笛ふいて	林 芙美子	栗山民也
2003(平成15年)	69歳	兄おとうと	吉野作造	鶴山 仁
2007(平成19年)	73歳	ロマンス	チェーホフ	栗山民也
2009(平成21年)	75歳	組曲虐殺	小林多喜二	栗山民也

※この他にラジオ、テレビ放送用戯曲やコント集がありますが、『井上ひさし全芝居』1~7巻に掲載された作品を参考にしました。

《the座第38号「太宰治に聞く」より》

日本語のおもしろさ、豊かさを徹底して生かした、あなたの語り口、これこそ日本人による日本人のための小説ですね。それがよく分かりました。(中略)

「誰もみてゐない事実だつて世の中には、あるのだ。そうしてそのような事実こそ、高貴な寶玉が光つてゐる場合が多いのだ、それを書きたいというのが、作者の生甲斐になつてゐる。」…素敵な文章です。わたしは、この文章を基にして、『人間合格』と題した、あなたの評伝劇を書きました。あなたの一生の中に隠れていた寶石をいくつも見つけて、それを一所懸命書きました。(1998年6月発行)

《the座第15号「前口上」より》

この戯曲を書いたのはたしか二十年前の